

材 料 部

1. スタッフ

部長（兼）病院教授 高階 雅紀

その他、副部長1名、主任技術専門職員1名、嘱託技術職員1名

2. 業務内容

病院内において、手術、処置及び検査に使用された剪刀（ハサミ）や鑷子（ピンセット）などの各種鋼製小物には、血液などの感染性を有する体液が必ず付着している。気管支内視鏡や消化管用内視鏡等についても同様である。病院内感染を防止するために、これらの再使用器具・器械を高度な専門技術を用いて洗浄し、さらに滅菌の品質を確実に保証した再生処理を実施している。

また、プラスチック製注射器、ガーゼ、各種カテーテルなどの滅菌済み医療材料は手術や処置に不可欠であり、これらの安定した供給と管理に努めている。

3. 業務の詳細

(1) 再使用器具・器械の洗浄・消毒・滅菌

1) 病棟・外来・センター・部に対して

当部が保有し、各部署に払い出しを行っている剪刀や鑷子などの各種鋼製小物の洗浄と滅菌及び各部署保有の器具・器械の依頼滅菌を実施している。

平成21年4月より、従来は各部署にて看護師・看護助手が行っていた汚染器具・器械の再生処理を当部で一括して実施している。当部による一括処理は、洗浄と滅菌の品質を保証し患者の安全を図りながら、病院職員のマンパワーの有効活用も可能となる優れた方式である。

平成22年度には、作業エリアの改装を完了し、新規にウォッシャーディスインフェクター2台と超音波洗浄機能付きの専用流し台2台を導入した。平成24、25年度には減圧沸騰式洗浄器を1台ずつ計2台とRO製造装置が導入され、従来以上に品質の高い器材再生処理が可能となっている。

2) 手術使用器械

年間約11,000件に及ぶ手術においては多種多様かつ多量の鋼製小物が使用される。血液や微細組織などが付着したこれらの器械をシャワー洗浄・超音波洗浄・用手洗浄を組み合わせ洗浄し、滅菌を実施している。さらに、平成22年度からは、2次元コードを用いた器材管理システムを稼働させ、手術用器械のトレーサビリティを確立している。このシス

テムを用いることで、手術器械の使用履歴が患者情報に連携して保管されるだけでなく、洗浄方法や滅菌方法の確認や滅菌期限の管理等の資産管理が可能となった。

3) 消化管用内視鏡・気管支内視鏡等の再生処理

従来から対応していた、診断・処置・検査に使用された年間約11,000本の消化管用内視鏡と気管支内視鏡に加えて、耳鼻咽喉科・頭頸部外科用の喉頭内視鏡の洗浄と消毒を開始し、平成27年には放射線、泌尿器外来、平成28年には各病棟、部署も開始し、ほぼ中央処理化したため年間処理本数は24,400本を超えている。再生処理装置は恒温槽（4台）、吸引式洗浄器（5台）、富士フィルム社製洗浄・消毒器（13台）である。

また、消毒薬（過酢酸）については専用局所排気を設置して環境の維持に努めている。上部消化管用、下部消化管用及び気管支内視鏡と喉頭内視鏡ごとに「前処理流し・恒温槽・吸引式洗浄器・洗浄消毒器」を1ユニットとして設定し、交差感染を防止している。

1)・2)の器具、器械に対し、高圧蒸気滅菌器7台、酸化エチレンガス滅菌器1台及び過酸化水素低温ガスプラズマ滅菌器3台にて滅菌を実施している。滅菌の品質保証については、空気排除の確認（ボウイーデックテスト）、化学的インジケータ、生物学的インジケータにて行っている。また、平成26年1月からは低温蒸気ホルムアルデヒド滅菌器（LTSF）を導入し、バリデーシヨンの終了したものから順次滅菌対象物を拡大している。

(2) 滅菌済み医療材料の管理・供給

1) 品目

平成29年度取り扱い品目は約2,500品目（在庫：約1,100、非在庫：約1,400）である。

2) 回収・供給

病棟・外来・センター・部ともに、平均2回/週である。また、オンコロジーセンター、ICU、血液浄化部の増床のため、供給及び在庫数が増えた。

3) 新規採用、在庫削除

ディスポーザブル医療材料委員会（4回/年、開催）にて承認された品目である。

平成 29 年度ディスポ医療材料払い出し金額及び棚卸金額

平成 29 年度払い出し金額 (単位：円)	臨時払い出し金額	定数払い出し金額	事後払い出し金額	合計
	264,428,354	471,945,331	134,978,115	871,351,840
平成 29 年度 3 月末棚卸し金額 (単位：円)	部署定数在庫金額	ディスポ室在庫金額		合計
	37,008,507	28,746,162		65,754,669

